



「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和3年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施します。今年度の2セット目について、高知市の中学校国語の拠点校である西部中学校での、第3回【教材研究会】(10月12日リモート開催)、第4回【授業研究会】(11月5日実施)を中心に本単元の学びの様子を紹介します。

第1学年 単元名：新発見！ぼくらの未来のシゴトを語る ～相手の反応を踏まえながら話す～ 【出典】「一年間の学びを振り返ろう」(光村図書『国語1』)

第3回 教材研究会

西部中学校の単元づくり

主体的な学びを実現するための単元構想の工夫

子供たちの主体的な学習につなげるために教科等横断的な視点に基づいた単元づくりを行った。

学習の時間
見つけよう未来のジブン I ～変化する社会において自己の生き方を考える～

特別活動
生活に関わる情報収集等を行い、自分自身の興味・関心を整理する。

国語科
1 単元の見直しをもつ
2 集めた情報を整理する
3 相手の反応を踏まえて話す
4 相手に応じた話し方を工夫する
5 互いに紹介し評価する

新発見！ぼくらの未来のシゴトを語る
～相手の反応を踏まえながら話す～

第4回 授業研究会

話の内容(言葉) ← 資料(対象) →

本時 (1/5時) 授業者：高岸 大祐 教諭 学級：1年6組30名

【本時の板書】

【教師モデル】

相手の反応を踏まえながら話す

① 知らなかったこと
② 疑問に思ったこと
③ 新たに知ったこと

三つの視点

言葉による見方・考え方を働かせている場面
興味・関心をひく内容とその理由を考えている。

目的・相手を押さえ、どのような内容を伝えたいかを押さえるために、教師のモデル動画を基に、興味・関心を持った内容を出し合い、グループで整理する。

生徒の課題を解決するための指導の視点

【これまでの授業における生徒の状況】
◆生徒が相手の知りたいことを話そうという意識が弱い。◆自分の用意したものを一方的に話すだけになっている。

【国語授業アンケート結果】
◆半数近い生徒が、自分の考えを話したり、必要に応じて質問したりすることに関して、苦手意識を持っている。

【指導における課題】
◆言語活動の目的を押さえさせることが弱い。◆相手によって、話す内容を考える指導ができていない。◆日常的な「話すこと・聞くこと」の指導の徹底が弱い。

【指導上の留意点】
◆自分の伝えたいことに対して、相手の興味・関心や情報量を考えた上で、話すことを整理させる。相手の反応から、受け止めや理解の状況を見極める。◆伝えたいことが分かりやすく伝わるように、話す内容、言葉の選び方や話し方を工夫させる。

相手意識を持って表現を工夫する力を付けたい！

単元の目標

【学びに向かう力、人間性等】
-言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

【知識及び技能】
-比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典のし方について理解を深め、それらを使うことができる。(2)イ

【思考力、判断力、表現力等】
-目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(A1)ア)
-相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(A1)ウ)



教師モデルを基に、相手が興味・関心を持つ内容として、①知らなかったこと ②疑問に思ったこと・詳しく知りたいこと ③新たに知ったことの三つの視点を押さえ、自分が集めた話す材料を整理しながら、紹介する内容を検討する。



目的・相手を押さえ、どのような内容を伝えたいかを押さえるために、教師のモデル動画を基に、興味・関心を持った内容を出し合い、グループで整理する。

「話すこと・聞くこと」の指導において重要なこと

講師 東京女子体育大学 田中 洋一 教授

- ・「目的」「相手」の明確化
→「目的」「相手」を明確にすることで、生徒自ら内容を選別したり、工夫したりすることができるといえる。
- ・良い見本となるモデルの提示
→生徒にとって良い見本の少ない領域であるため、教師モデルなど良い見本を示すことで生徒が見本を持って学習を進めることができる。
- ・試行錯誤し、表現の工夫を考える場面の設定
→「相手」に応じて応じた必要な情報か、不要な情報か、また、聞き手に応じた適切な語り口であるか、どのような話し方をするかなど思考する場面の設定が必要である。
- ・「聞き手」の指導の重要性
→「聞き手」が、「話し手」の話し方や話し方に対してよい反応を示すことで、「相手の反応を踏まえながら」(A1)ウ)の指導につなげることができる。

ワークショップ 《学習評価について》

本時の評価場面と授業後のワークシートを用い、評価の検討を行った。

本時の評価規準・評価方法

評価規準・評価方法
【思考・判断・表現①】

「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A1)ア)ワークシート

Bと判断する状況
ここでは、目的・相手を押さえ、話し手を踏まえ、話し材料を整理しながら紹介する内容を検討しているかを確認する。

【評価場面】

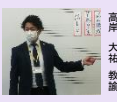
相手が興味・関心を持つ内容として、自分の強み・得意な内容を伝えたいかを確認し、総合的な学習の時間等で集めた情報から紹介する内容を検討し、付箋を移動させている。

適切な学習評価を行うためには、いつ、どこで、どのような方法で評価を行うのかを明確にすることが重要である。

【授業者より】

「話すこと・聞くこと」の授業においては、目的に応じて「相手に自分の考えを伝えるために」というように工夫すればいいか」という相手意識を常に持たせ指導することが重要である。本時は教師のモデル映像から興味・関心を持ってもらうための三つの視点を取り出し、その視点に基づいて自分の情報や相手にとって興味・関心や内容であるかどうか判断し、検討している場面を評価場面とした。生徒は、自分の職業であればどの内容を伝えたいかを吟味したり、事前に調べた情報に追加する内容を書き込んだりして、紹介する内容を検討していた。しかし、三つの視点のうち、どれを使って内容を検討したかの説明させる等、自身に付けさせたい資質・能力の定着状況を図ることが十分であった。今後も、国語の授業で学んだことを、日常生活の様々な場面で生徒たちが使いこなせるよう、指導と評価を具体的に描き、目指すべき資質・能力の育成に励んでいきたい。

【参加者の感想】
-教師が教え込む授業にならないよう、「言葉による見方・考え方を働かせること」によって資質・能力を身に付けるコツをつかませる授業をしていきたい。また、具体的言葉で説明させるとともに、それを活用できるように一般化することが説明感覚の獲得につながると思った。
-学習評価について毎時間全員がB評価以上になる指導を計画し、C評価になる生徒への手立てをしつかり準備しておくことが重要である。



高岸 大祐 教諭